

広島県福山市新市町常

天地遺跡・天地第1号古墳見学会資料



平成26（2014）年9月27日（土）

公益財団法人広島県教育事業団
福山市教育委員会

1 はじめに

公益財団法人広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室では、金丸府中線単県道路改良事業に伴って、平成26年7月7日から平成26年10月10日までの予定で、^{てんちいせき}天地遺跡・天地第1号古墳の発掘調査を行っています。この度、遺跡の概要が明らかとなり、見学会を開催することとなりました。なお、天地遺跡については、次年度も引き続き発掘調査を行う予定です。

2 位置と環境

新市町は福山市の北西部に位置し、西は府中市、北は神石高原町に接しています。神石高原町から流れる^{かやがわ}神谷川が町域の中央を南流し、芦田川と合流します。遺跡は新市町の中でも北部の常金丸地区にあり、天地遺跡の標高は中央部で105m、天地第1号古墳の標高は墳頂部で136mです。

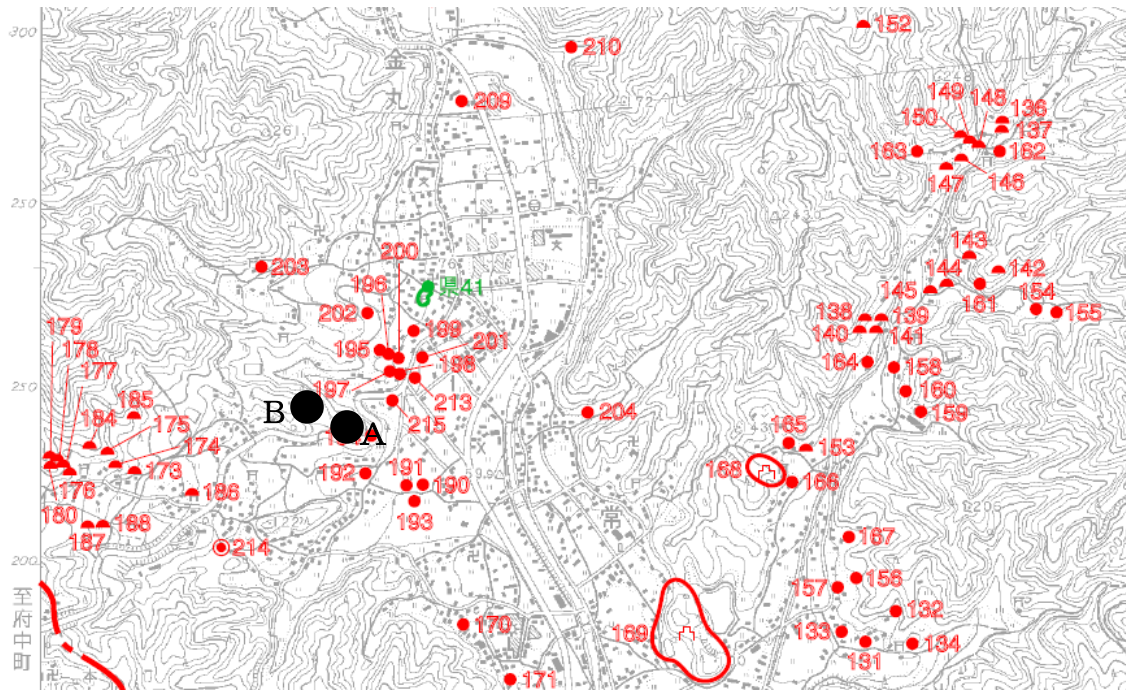
周辺の主な遺跡としては、縄文時代早期の土器や細石器が出土した遺跡として知られる宮脇石器時代遺跡、横穴式石室を埋葬施設とする13基からなる権現古墳群などがあります。6世紀後半の古墳の姿をよくとどめる権現第1号古墳は、権現古墳群のなかで最大規模の円墳であり、直径11m、高さ5mです。また、羨道を含めた埋葬施設の平面形が十字型になる国内唯一の古墳として知られる尾市第1号古墳もあり、墳丘は10.7mの八角形、築造は7世紀後半と考えられています。奈良時代から平安時代の鍛冶炉が直線上に7か所並んだ状態で検出された矢立遺跡は、天地遺跡と同時代の遺跡であり、関連が注目されます。

3 発掘調査の概要

天地遺跡

調査区全体が北から南に下る斜面になっており、主に上段・中段・下段の3段に分かれています。これまでに竪穴住居跡・土坑・溝状遺構・段状遺構・柱穴群を検出しています。出土遺物は、弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器・亀山焼・鉄製品・石製品などです。古代から中世の土器が中心を占めていますが、注目される遺物に石帯があります。

上段では、主に中世の段状遺構を検出し、主な出土遺物は土師質土器・亀山焼・鉄製品（用途不明）などです。段状遺構には、壁溝や柱穴を伴うもの、壁面にやや大きな石を伴うものがあります。また、複数の段状遺構が連なっていると思われる場所もありますが、土層観察では明確な重複関係が確認できませんでした。造られた時期にあまり差が無いか、長い1つの段状遺構である可能性もあります。現在のところ段状遺構に伴う柱穴はわずしか検出していません。また平坦面が少なくやや大きな溝を検出していることもあり、住居としてではなく、道など他の用途も考えられます。ただし、段状遺構の斜面側平坦面は通常は盛土によって形成されるため流失しやすく、平坦面が当時も少なかったとは断定できません。



周辺遺跡分布図 (1 : 20,000)

(ホームページ「広島県教育委員会 広島県遺跡地図」に加筆)

<u>A 天地遺跡</u>	171	茶屋遺跡	205	厚山遺跡
<u>B 天地第1号古墳</u>	172	芋平遺跡	206	田能城跡
<u>県41 宮脇石器時代遺跡</u>	173~185	<u>権現第1~13号古墳</u>	207	天神山城跡
131~134 尼神窪1~3号遺跡	186	垣手古墳	208	厚山古墳
136~141 芦浦第1~6号古墳	187・188	向田第1・2号古墳	209	金丸1号遺跡
<u>142~145 尾市第1・3~5号古墳</u>	189	常城跡	210	向金丸遺跡
146~150 神出第1~5号古墳	190	天神面遺跡	211	石屋原城跡
151・152 塚久保第1・2号古墳	191	曾根田遺跡	212	亀寿山北遺跡
153 屋敷荒神古墳	192	平佐遺跡	213	大地2号遺跡
154・155 岡奥1・2号遺跡	193	正尺遺跡	214	金名の郷頭
156~164 芦浦1~9号遺跡	195・196	内黒1・2号遺跡	<u>215</u>	<u>矢立遺跡</u>
165 屋敷荒神西遺跡	197・198	浜1・2号遺跡	216	輪蔵遺跡
166 宇根東遺跡	199・200	土生田1・2号遺跡		
167 打部遺跡	201	大地遺跡		
168 宇根城跡	202	矢倉田遺跡		
169 日隅城跡	203	常遺跡		
170 仁吾遺跡	204	砂原遺跡		

中段では、古代の段状遺構や溝状遺構、古墳時代から古代の竪穴住居跡を検出しています。主な出土遺物は、須恵器・土師器・石製品（石帯^{せきたい}）などです。中段の段状遺構にも柱穴はわずかしか伴わず、性格は不明です。また、溝状遺構も水が流れた痕跡はなく用途は不明ですが、奈良時代から平安時代にかけての須恵器・土師器とともに、平安時代の石帯が出土しました。並んだ状況で検出した竪穴住居跡は共にカマドを伴い、古墳時代後期から古代の須恵器が出土しています。

下段では柱穴などを検出しています。



中世の段状遺構が連なる様子（北西から）



壁面に石を伴う段状遺構（西から）



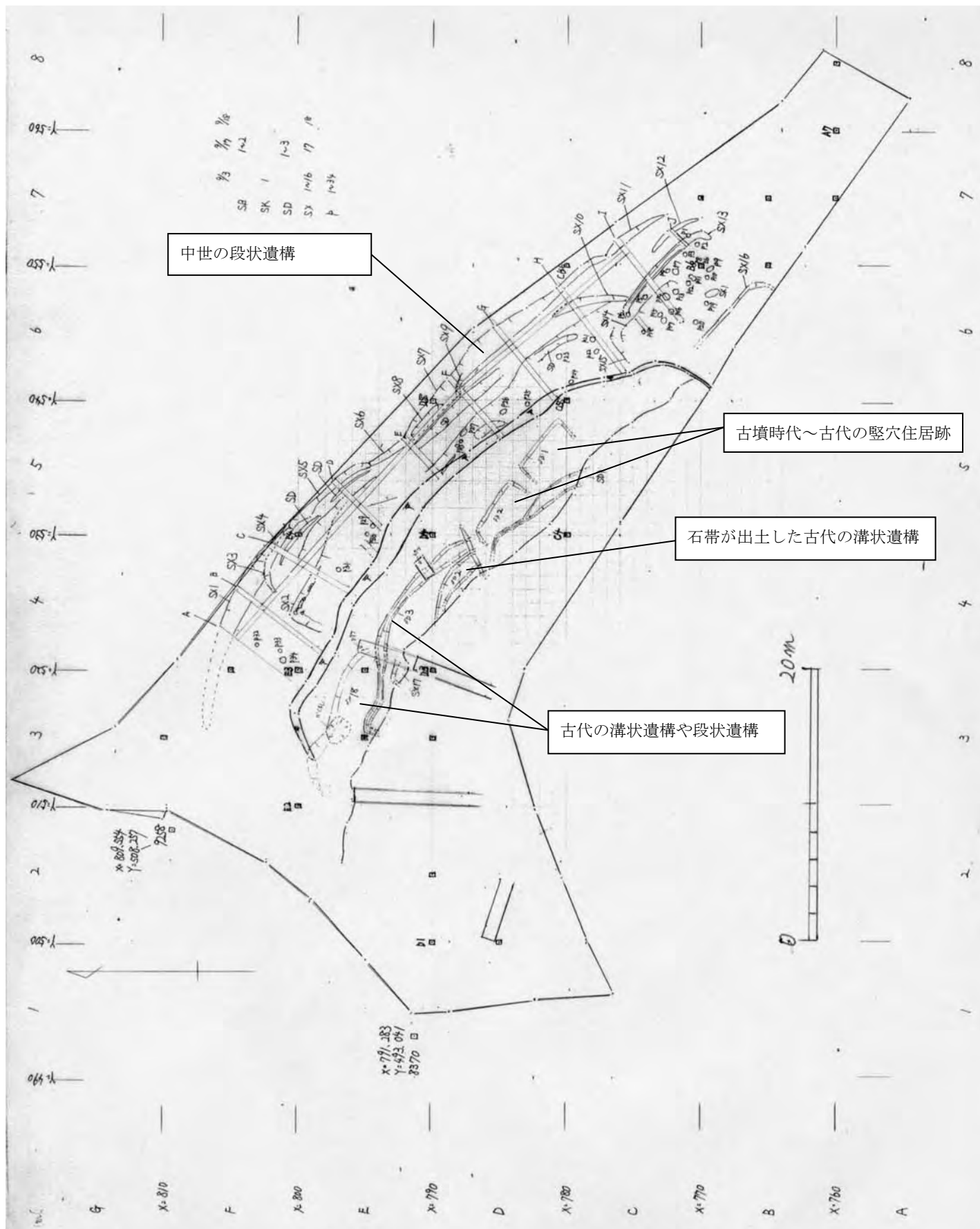
壁溝や柱穴群（南から）



石帯が出土した古代の溝状遺構（南東から）



古墳時代～古代の竪穴住居跡（北西から）



天地遺跡 遺構配置図 (1 : 400)

天地第1号古墳

天地遺跡から西に30mほど登ったところにあり、北から南に延びる丘陵の先端部付近に立地しています。今回は墳丘の南側半分のみ調査ですが、試掘調査で墳丘中央部に埋葬施設（箱式石棺1基）が確認されています。

墳丘の南側は、地山を削って直線的な裾部が造り出され、北側は丘陵に直交する直線的な溝を掘って区画されていると考えられます。東側と西側は丘陵の斜面を利用し、裾部がわずかに掘り下げられています。そのため、墳丘の平面形は方形に近く、南北10.5m、東西10.9mの規模です。盛り土は0.3m（蓋石の上は0.2m）残っており、現在の墳丘の高さは1.8mです。

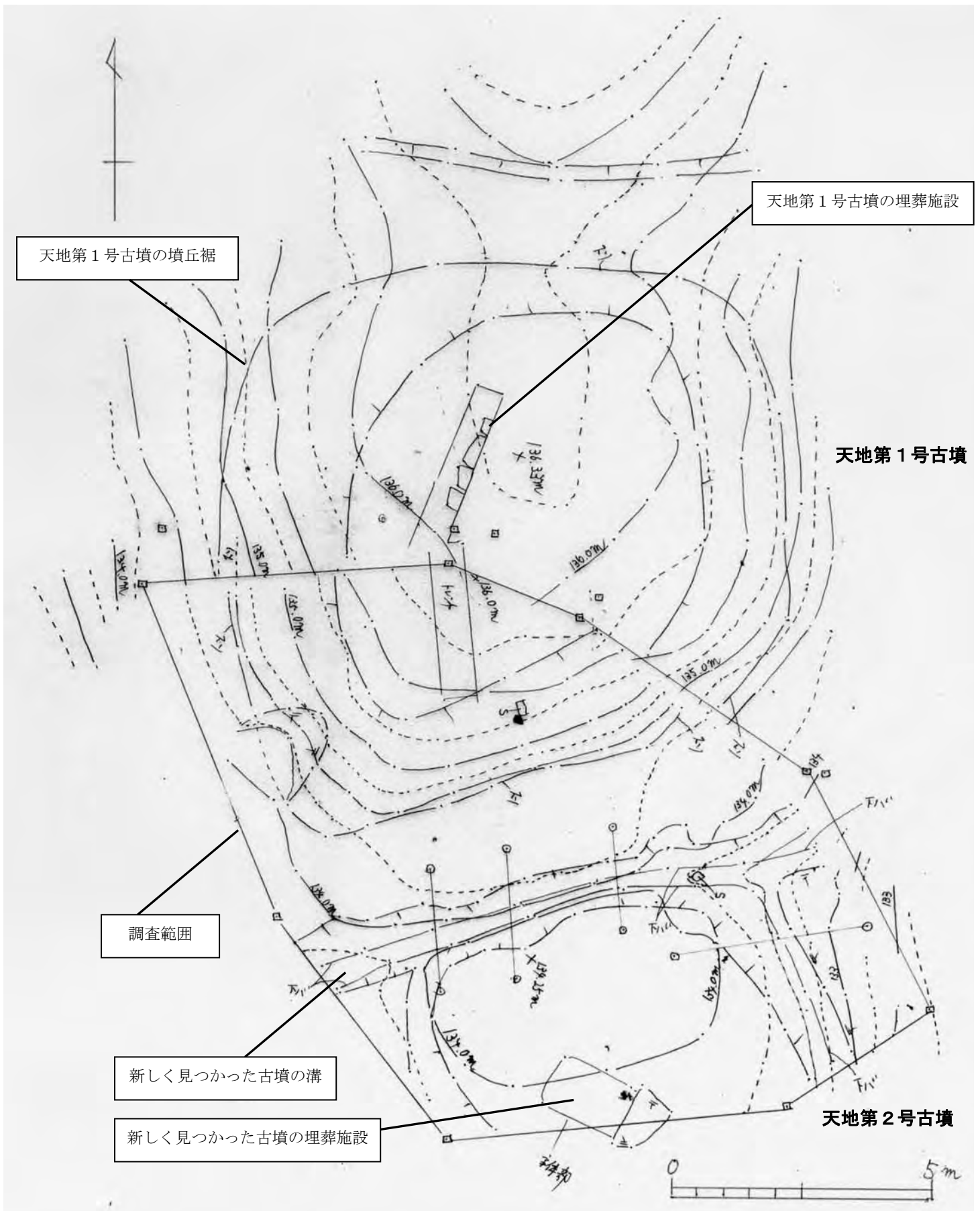
古墳に伴う遺物はなく、築造時期は不明ですが、眼下の谷部に存在した集落を意識していることが立地からうかがえ、これらの集落と繋がり深い人物が埋葬されていたと考えられます。

なお、天地第1号古墳から南に2.0m離れた場所から、幅0.8～2.0m、深さ0.3～0.4mの溝状遺構が検出されました。この溝状遺構は平面形がコの字状になっており、別の古墳（天地第2号古墳）の背面カットであることが判明しました。

埋葬施設の箱式石棺（西から）



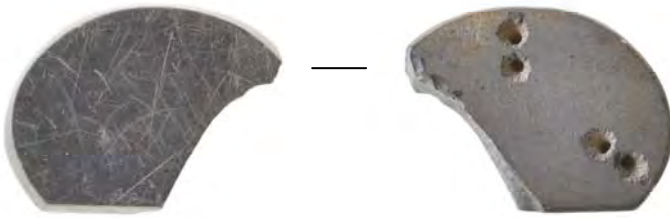
墳丘を検出した様子（南東から）



天地第1号古墳 墳丘測量図 (1 : 100)

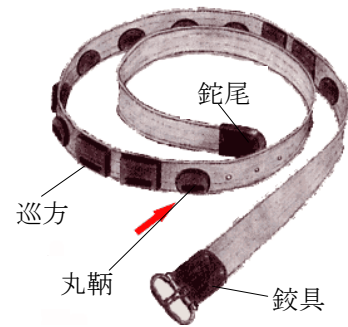
4 おわりに

天地遺跡の溝状遺構からは奈良時代から平安時代にかけての土器とともに、平安時代の官人（役人）が身に着けた腰帯を飾る石製の丸鞆^{まるとも}と呼ばれる部品が見つかりました。平安時代の官人の腰帯は、一般に石帯^{せきたい}とよばれ、古代の律令で定められた官人の身分に応じて金属や石の部品で飾られた革帯です。こうした石帯の部品が見つかった天地遺跡には、古代の官人かこれとかかわりの深い人が暮らしていたことが推測されます。また、段状遺構から試掘調査で椀形滓^{わんがたさい}が出土していること、焼土や炭化材が出土している段状遺構があることなどから、何らかの工房であった可能性もあります。



溝状遺構から出土した丸鞆

(幅 3.5 cm 高さ 2.6 cm 厚さ 0.5 cm)



石帯の復元図

(ホームページ「山口大学埋蔵文化財資料館」に加筆)

広島県の石帯出土遺跡

番号	遺跡名	所在地	石帯の種類・点数
1	備後国府跡・元町東遺跡	府中市元町	丸鞆 1, 巡方 1, 鉈尾 1
2	備後国府跡・ツジ遺跡	府中市元町	鉈尾 2
3	藤が迫古墳	東広島市八本松町飯田	巡方? 1
4	権地古墓	広島市安佐南区祇園	丸鞆 6, 巡方 1
5	寺山遺跡	三次市三良坂町灰塚	巡方 1
6	箕口遺跡	世羅郡世羅町	丸鞆 1
7	安芸国分寺東方遺跡	東広島市西条町吉行	丸鞆 1
8	郡山大通院谷遺跡	安芸高田市吉田町吉田	鉈尾 1
9	うめの辺 1 号遺跡	東広島市高屋町	巡方 1
10	天地遺跡	福山市新市町常	丸鞆 1